

# 県大生が獅子舞奉納

## 安芸市入河内の伝統継承

【安芸】安芸市入河内の船岡神社でこのほど、秋の神祭が行われ、地域との交流を続けている高知県立大学の学生らが獅子舞を奉納した。

入河内を含む東川地区では、2015年に県大社会福祉学部の田中きよむ教授らが住民の生活実態や困りごとを調査。獅子舞の継承者が減っていることが挙げられたため、同年から毎年、田中教授のゼミ生を中心に学生が奉納している。

今年は1、3年生6人が2人ずつ、獅子とテガイ子、かねの演奏に役割を分担。10月に東川公民館で地元の踊り子らから指導を受け、その後は動画を見ながら練習を重ねてきた。

住民や地区出身者ら約20人が見守った6日の本番、学生たちは太鼓とかねの軽



住民らが見守る中、獅子舞を披露する高知県立大学の学生ら  
(安芸市入河内の船岡神社)

快なりズムに合わせて、迫力のある舞を披露。観客から「上手にできちゅう」と拍手が起こった。

3年の川上遼子さん(21)

は「地域にゆかりのない私たちが参加することに不安もあったけど、無事に披露できてほっとした」。東川地域おこし協議会の有沢俊明会長(72)は「若い人が毎年来てくれて、高齢化が進む地域の活気になっている」と喜んでいた。

(宮内萌子)